

第5学年 図画工作科学習指導案

5 年 26名
授業者 牛田 和哉
森本 恵美香
授業場 音楽室

1 題材名 音を感じて〈A表現(1)イ 絵に表す, B鑑賞(1)ア, 共通事項(1)ア, (1)イ〉

2 題材設定の理由

本題材は、目には見えない音を感じながら、形や色を思い浮かべて絵に表す活動から始まる。生活の中でよく聞く身近な音を、オノマトペやリズム等のイメージを表す言葉に置き換えて、それを基に感じを形や色で表す活動である。イメージをもとにアイデアスケッチをくりかえし描くことで、動きやバランス、色の鮮やかさをとらえ、鉛筆、絵の具、クレヨン等の描画材の特徴を生かし、自分の思いに合うものを選び、試行錯誤を繰り返して絵に表していく。この活動を通して、児童は、身近な音に関心を持ち、想像して表す楽しさを味わうとともに、自分の表したいことを見つけ、思いついたことを自分のイメージに合わせて構想し、表し方を工夫していくであろう。また、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化等について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めることも期待できる。

本学級の児童は、明るく活発で何事にも一生懸命に取り組むことができる。特に図画工作科に関しては、毎週楽しみにしている児童が多くおり、休み時間にも絵を描くなどして楽しんでいる姿も多く見られる。また、自分の思いや考えを豊かに表現したり、自分なりの見方や感じ方で鑑賞したりする児童もいる。4月に『児安の春』という題材で、学校周辺の春探しに出かけ、見つけたものを絵に表した。その際、同じ生き物や場所・ものを選んでも、春らしさを伝えるためにそれぞれの児童が感じた春らしいイメージを表現するために、実際の色ではなく、自分のイメージに合う色に置き換え彩色していた。また、自分のイメージに合ったようにするために色の塗り方や表現するための用具を工夫する等していた。完成した作品を見てみると、それぞれの思いが詰まった個性あふれる作品が多くできた。しかし、その作品を相互に鑑賞した際には、「鑑賞カードになんて書いたらいいか分からん。」と発言する等、友達の作品に対するコメントを書くことに苦慮している姿も見られ、「児童の思いを大切にした指導」や「互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする指導」、「鑑賞活動の観点からの指導」等の課題も明らかになってきた。そこで、朝の「スマイルこうぼう」の時間を活用し、「12色相環」を活用して、色合いや明るさ、鮮やかさの観点から、それぞれの児童が感じる印象について話し合う活動を行った。色のもつ暖かさや冷たさだけでなく遠近感にも気づく等、色あいや鮮やかさ、明るさ等から、色を手がかりに見方や感じ方を深めている児童も増えてきた。

指導に当たっては、まず、身近な音を感じながら、イメージを広げることから始めたい。そのために、教室で静かに目を閉じて、聞こえてくる音に耳を澄ませるような場をつくる。また、校舎内や屋外に出て聞こえてくる音を探し、音からイメージを広げる等を通して、音を絵に表す活動について興味や関心がもてるようにする。次に、その感じた音から、イメージを表す言葉に置き換え、形や色を思い浮かべて、小さな紙に簡単な線等で描いてみることを提案する。その際、自分の表したいことに合う材料を児童自身が集めたり、自分の表そうとする形や色に合う材料を選んだりする時間や場を設定する。指導者は、児童の思いに応える、ペンや刷毛、ローラー等の用具を準備し、表し方を試行錯誤できるように配慮したい。鑑賞活動においては、少人数のグループに分かれ、友達の絵から、どのような音が感じられるかを話し合う。その際、友達の絵の形や色、表し方の「どの」「どこから」そう感じるのかといった具体的な観点を示すことで、友達の作品や自分の作品のよさや美しさ、表し方の違いを認め合い、自分の見方や感じ方を深めることができるように指導したい。

3 題材の目標

(1)・音を聞いて、イメージを広げて絵に表すときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、色の鮮やかさなどを理解する。

・表現方法に応じて用具を選択したり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、工夫して表す。
(知識及び技能)

(2)・音を聞いて感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、構成の美しさなどを考える。

・作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や考え方を深める。

(思考力、判断力、表現力等)

(3)・主体的に人やものに関わる活動を通して、つくりだす喜びを味わうとともに、作品の造形的なよさや面白さ、表し方等について進んで鑑賞する活動に取り組む。

(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 音を聞いて形や色を思い浮かべ、イメージを広げて絵に表すときの感覚や行為を通して、動き、色の鮮やかさ等を理解している。 表現方法に応じて用具を活用するとともに、これまでの経験や技能を生かしたり、表現に適した方法等を組み合わせたりする等して、表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを持ちながら、音を聞いて感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさ等の感じなどを考えている。 自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴等について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい、主体的に表現する学習活動や鑑賞する活動に取り組もうとしている。

5 指導計画（4時間 本時4／4）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> 身近な音を感じながら、形や色を思い浮かべ、そのイメージをスケッチする。 	<ul style="list-style-type: none"> 態 ◎ 知 ○ 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的にイメージを広げて、絵に表す活動に取り組んでいる様子を観察し記録に残す。 (観察) イメージを広げて絵に表すとき、動きや色の鮮やかさなどを理解している様子を観察し、指導に生かす。 (観察・作品)
2 3	<ul style="list-style-type: none"> 音の感じに合わせて、材料や用具、表し方を選び工夫して表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 技 ○ 	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法に応じて用具を活用するとともに、これまでの経験や技能を生かしたり、表現に適した方法等を組み合わせたりする等して、表し方を工夫している様子を観察し、指導に生かす。 (観察, 作品, ワークシート)

		☒ ◎ (発想や構想)	・自分のイメージを持ちながら、音を聞いて感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じなどを考えていることを記録に残す。 (観察, 対話, ワークシート)
4	・友達と互いの作品を鑑賞し、よさやおもしろさ、感じ方の共通点や相違点に気づき、自分の見方や感じ方を深める。	☒ ◎ (鑑賞)	・友達の作品を見て、よさやおもしろさ、感じ方の共通点や相違点に気づき、見方や感じ方を深めている様子を観察する。また、ワークシートの感想から学習状況を把握し、記録に残す。 (観察, 対話)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

6 本時

(1) 目標

身近な音をもとに表現された友達の作品を鑑賞する活動を通して、作品のよさや美しさ、表し方の違いを認め合い、作品に対する感じ方の違いに気づき、自分の見方や感じ方を深める。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準	評価方法
	1 本時の学習活動やめあてを確認する。	本時のめあてを確認し、学習の見通しをもたせる。		
	友達の作品のよさや美しさ、表し方の違いを感じ取る			
	2 グループに分かれて、相互に鑑賞する。	発言に困っている児童がいれば、作品を見る観点を与えるようにする。 話し合いが深まるように、自分なりの根拠や理由を交えて伝えられるようにする。	友達の作品を見て、様々な観点から、見方や感じ方を深めている。 【思考・判断・表現（鑑賞）】	観察 対話
	3 振り返りカードに記入し、本時の学習を振り返る。	自他の作品を鑑賞したことを肯定的に振り返らせる。		発表 ワークシート

(3) 評価および指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	友達の作品に描かれた線や形、色などからイメージを感じ取り、作品のよさや表し方の違いを感じ取っている。
「おおむね満足できる」状況を実現させるための具体的な指導	作品を鑑賞する観点を示すことで、自他の作品を比較できるようにする。